

**金坂** 1年・2年生は、その頃よく西宮の農家へ稲刈りや何かの作業に行きました。2・3回行ったように思います。

**空谷** 残っておる1・2年も、「学校工場」と称して、勉強そっちのけで軽作業みたいなのをやります。だから全焼しても、不安なことは不安なんだが、その点でさほど大きな支障は無かった。いわゆる、ちゃんとした校舎で、ちゃんとした勉強をした雰囲気と違いますからね。

私が着任したのが、19年4月でしたかね。着任して二月したら、サイパン陥落、戦局急迫でね、そして今お話した3年生以上は勤労働員ですわ。ちょうど私が着任した年が、旧制中学として、1年から5年まで揃ったんです。二か月、授業らしいものをしましたけど、二か月したら、私も小隊と称する一組（一組といっても、もとの組単位じゃなくて編成替えした）50人を連れて、久保田鉄工所武庫川工場に、6月から翌年の8月終戦まで一年と少しほとんど毎日通いました。

**金坂** 確か打出の校舎も川西航空の学校工場に指定されたことがあるんです。その時私は、3回生に転属になって日本パイプに行っておりましたから、その辺の詳しい事情は知りませんが、たまたま空襲のあった日は、まだ出勤前で、電車は停まっているというし、学校へ駆けつけてみたら……

**司会** そうすると、全員学校に集まるのは、始業式と終業式ぐらいですか。

**空谷** 一週間に一日だけ学校へ帰る日があるんですけどね、しかし、その一日どんなふうにして集合したのかな。敗戦間際の混乱期だから、それどころじゃないですわね。

**福田** 川西航空ね。校舎の150坪程で、芦中を工場に貸すという。

**司会** 工場とみなされたから空襲を受けたんでしょうかねえ？

**空谷** 上空から見ますと、学校の南側に川崎重工の独身寮が、ずっと兵舎みたいにあったんですわ。（今では、建て替わっていますが、精中の南にやはり川崎の寮があります）空襲の一週間前に、たまたま、私、学校に居ったのですが、そしたら、上空を

B29の偵察機がきちっと通ったんです。これは危いぞという予感があった。ああいう上空から見ると、それが兵舎の一角に見えたんでしょうなあ。だから、びしゃーと一撃で命中させて焼いています。学校の北側に民家があったんですが、そこには全然被害が出てない。芦中と南側の川崎の独身寮にきれいに命中ですわ。一体として見られたんでしょうなあ。

## 新制高校発足当時

**司会** 昭和20年6月に空襲で焼け、その二か月後に終戦を迎えますが、生徒たちも工場から帰ってきて、急に民主教育に変わりますね。新制芦屋高校になるまでの学校の様子はどんな具合だったのでしょうか。

**空谷** 私は19年に芦屋中学校に着任して、それから37年まで18年間お世話になったんですが、その間に大きな敗戦、それから大きな変動があった。

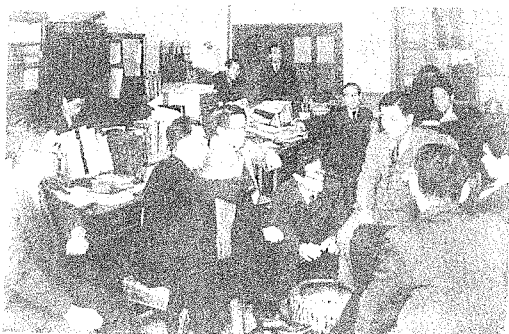
一番、芦屋高校の学校造りに役立っているのは、たまたま、旧制中学の歴史が短かくて伝統的なものが無いまに新しい制度に移行したということで、それはある意味では強みであり、またある意味では一つの弱みでもあったと思っていますがね。

それともう一つは、これは戦争でやむを得なかったせいなんだけれども、昭和19年・20年の入学試験のやり方です。これは、やむを得ざる学区制です。尼中、芦屋中学、それから、一中・二中・三中・四中・明石中学、そこまでが戦前の大阪湾ベルト地帯の総数に当たり、その志願者はそれぞれの中学を志願するのではなく、大きく「県立中学」を志願するという形を取ります。定員の合計総数で合格者を決めて、あとは地域毎に合格者を分けていくのです。

（今で言う「総合選抜」にあたるものではないかと思っています。）そこで、私が昭和20年に入学した生徒の担任になったんですが、聞く処に依ると、武庫川から西、住吉川から東の生徒が入っていますね。その頃は、宝塚にも西宮にも県立中学がありませんから、尼中、次が芦屋ですわ。19年の入学生と20年の入学生は、従来ある程度のレベルはあったろうが、一遍に芦屋中と一中へ入りたい者がたくさんおっただろうけど、一中へ入れない。だから、だいたいこ

の辺の優秀な者は皆来てますね。

**金坂** なるほど、だから各学校で入試をしなかったですよ。3月末でしたか、私はこの入学試験の準備で、空襲の後のまだくすぶっているなか、県庁へ行きました。すると、今日は来てもしかたがないから帰れ、また何れご沙汰があるということでした。そのままどういうふうにされたのか、その後召集は無かったですけどね。神戸空襲のあった日で、3月17日でしたかね。



新制高校発足当時の職員室風景(昭23)

**司会** 昭和23年に実施された学制の改革で新制芦屋高校になるんですが、その辺は、スムーズに移行したのでしょうか。

**金坂** いいえ。焼けて設備の無い中学校は廃校にしようという文部省の意向があったんですが、あの当時の回想録見ますと、阪部校長先生が、「県へ行っても、校舎は市が建てる約束だった」と言って「一向埒が明かん」と。それで、市へさんさんお百度踏んで、「じゃ、宮川小学校をあげます」ということになり、ほっと一息つかれたという経緯があります。

**壺谷** あの時、父兄会がしっかりしていて、大いに尽力してくれましたな。

**福田** 私、9月に復員して帰ってきたんですが、生徒が机を本山に一つずつ担いで運んでいく姿に会いました。打出の方には生徒の机が残ったようです。

**金坂** ええ、だいぶね。行った時、机は焼け跡に積んでありました。

**壺谷** 机は百くらい残ったんちがいますか。それを持って、本山第一、第二、それから芦屋青年学校、(現芦屋消防署)に移っている。それで、宮川小学

校を本校舎に獲得するにあたっての阪部先生はじめ育友会長の茶谷さん、副会長の橋谷さんの尽力は相当なものだった。

**福田** 自治会運動では、宮川小学校を芦屋中学の校舎へ寄附するという議案を市会に出したわけですが、宮川の方の育友会がそれを聞かないわけです。

**司会** 当時進駐軍のジープが来て、警備したとか…

**奥田** 今の話はまた別の話だと思いますが。私はその頃復員して帰って来て、学生時代が終わるぐらいの時、芦屋中学のことはよく新聞で見た記憶があるんです。そういう細かい版までこの辺の図書館は残してないと思うんですけど、お調べになったらどっかに出てくると思います。今おっしゃっている学校の校舎が宮川小学校使用に決まったということが、新聞にはっきり出ておりました。それから、さっきおっしゃった、廃校にするかどうかという問題で、市や県の方で動いているというのは、当時の新聞は僅かしか種類が無いのに出ていた記憶があります。

**金坂** 「芦高十五年史」を創る時に、学校が焼けたせいもあって何も資料が無いんです。何を資料としたかと言うと、第一資料は新聞記事でした。

**司会** 「芦高十五年史」の座談会のところで育友会の役員の方と阪部校長先生などが、その辺のことをずいぶん詳しく話しておられますね。

### 「芦中新聞」・芦高自治会の創設

**奥田** お聞きになっているか知りませんが、京大の浅尾直弘君が4・5年前にハーバードの先生をやってましてね、その時にメイン州の州立大学に日本の戦時中の公文書が皆置いてあるのを見た。そこでびっくりしたことには、なんと「芦中新聞」があった。戦前、「芦中新聞」を出す出さんと、学校当局と自治会とがだいぶもめた時があるんじゃないですか。結局、米軍はプレス・コードなどでそういうことまで調べてたんじゃないか、と言ってね。

**壺谷** その記事はね、僕の記憶しているところでは、あまり抵抗なしに出たと思いますね。

**奥田** かりに、抵抗なしに出たにもせよ、「芦中新聞」の第1号がちゃんとアメリカ占領軍のファイルに入っているとって驚いていました。

空谷 それは15号以後でしょう。第1号というのは壁新聞でね。無いはずですよ。

なぜアメリカがそういう資料を残しているかというのと、戦後文部省が発行した「民主主義」を読んで批判したものが、15号以後の「芦高新聞」に載って、それがたまたま占領軍の手に入ったのでしょうか。というのはね、長いこと産経新聞の記者をしていた馬淵良俊がね、本山第一小学校に居た頃に、壁新聞で第1号を作った。これはほんの手書きのもので、7回生が記念祭の時に展示に出展して、その後捨ててしまよかった。(笑い) 私はね、芦屋中学から新制高校へ通ずる一つの柱として一番大きいのは、先程言いました戦争中のやむを得ざる学区制で、彼ら優秀な者が入って来て、それが、旧制中学から新制高校が始まろうとした学年に居ったわけです。それからもう一つは、もと校友会と称しておったのが戦争の急迫の中で報国団という名前になったんだが、敗戦になって、その報国団がまたもとの名前にかえて校友会になった。そしてもう一方で生徒が主体になった自治会を作れと言うわけだ。だから、校



自治会の創設・藤岡内閣発足(昭24)

友会と自治会と、二本立てで出発した。そうしているうちに、新制高校が始まる間際が始まった頃か、この組織を統一しようという意見が出て来た。そこで5回生の三船と6回生の宅見<sup>たくみ</sup>というのが、旧制姫路高校の自治会規約を参考にして校友会と自治会とを一緒にした規約を作った。その時僕は思ったなあ、レベルの高い旧制高校の自治会規約を参考にしてあんな規約作って、よう使いこなすかなあ……

とにかくあの頃は、世の中全体がそうやったが、学校の中も、言ってみれば、一つのカオスの状態やねえ。あの石坂洋次郎の小説、映画にもなった、「青い山脈」的な世界——カオスだった。なにか、皆希望持とったなあ。

それからね、もう一つある。旧制中学から芦屋高校に移行する時に、やっぱりなんと言っても、「男女共学」ですよ。



新制芦屋高校発足当時の授業風景(昭25)

司会 そのお話をお伺いしたかったんですが、一番変わったのは男子ばかりの中学校から男女共学ということですね。御影の方から女生徒が来たという記録がありますが、その辺のことを曾谷先生、お願いします。

## 男女共学と家庭科

——家庭科の授業の開始や  
当時の女子生徒のようす

曾谷 私は24年の4月に赴任して参りましたが、当時のそれまでの過程をいろいろ資料を調べてみましたが、家庭科関係の資料はみつきませんでした。野球関係の資料が随分手元にございましたが…。ご一緒しました辻田先生にお電話でお伺いしましたがやはり不確かでした。結局23年10月に辻田先生が既にこちらに居らしてましてね。尚資料によりますと、23年の6月29日に交流生が83名御影高校から転入して来ています。さらに24年5月2日には、3年生12名が御影から転入して参りました。私が参りました時には、辻田先生と二人で家庭科を担当したわけですよ、最初、阪部校長から呼ばれてましてね、「家庭科